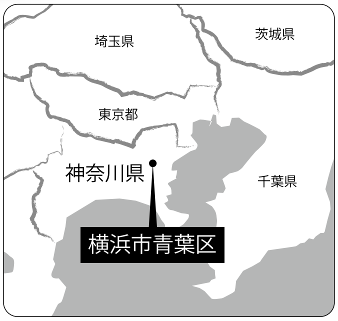
子ども発信で生まれる仮想の街で多世代交流

神奈川県横浜市青葉区　チッチェーノ・チッタ運営委員会



チッチェーノ・チッタについて

チッチェーノ・チッタは２０１８年にスタートした、横浜市青葉区唯一のキッズタウンです。

「地域から子どもたちへ生きた教育を」をテーマに、子どもたちがお仕事と商売を起点に街のこと、街づくりを考え、１日限りの仮想の街を作ってみるという取り組みをしています。

全国に１００以上あるといわれるキッズタウンの中で、いわゆる子どもマルシェではなく、街をつくる、起業をする、お仕事体験をする、街を楽しむ、この大きく４つの要素を備えて、リアルな街同様に、面白くて難しい部分がそのまま詰め込まれていることが大きな特徴です。

子ども発信で生まれる様々なアイデアに、多様な立場の大人たちが本気で関わって作られる仮想の街は多世代交流の場になっています。

参加は都度一般応募しています。２０２５年３月に開催した「チッチェーノ・チッタ２０２５」では、出店者、子ども参加者、ボランティア、当日来場者を合わせて約４０００人が参加しました。

・子ども事業者・まちづくりメンバー：40名
・子ども市民：３００名
・大人出店者：１５０名
・運営、ボランティア：１１０名
・一般来場者：３４００名ほど

チッチェーノ・チッタ４つの要素

①街をつくる

街づくりをする子どもたちは、街に納められた税金を使って街全体をより良くするために設備や仕組みを考えて形にしていく、いわゆる市役所職員のような立場です。

「街を盛り上げたい」「たくさんの人に来て欲しい」「みんなが楽しめる街って」など、人のためになること、人が喜ぶことを考えアイデアを出し合います。またそこには地域の高校生や大学生、街の大人たちがボランティアとして多数参加し、それぞれの得意分野を生かしサポートする中で自然と多世代の交流につながってきています。

②起業する

起業する子どもたちはそれぞれに事業計画書を作り、収支を意識しながらお店の準備を進め、実際に店を開きます。ここで得た収益から事業者所得税を納めます。

子どもが学校や家庭ではお金のことを学ぶ機会が少ない中、このような体験はリアルな世の中のことを意識するきっかけになります。

お金を払って商品を買っていただくことは、「自分が作りたいもの、売りたいもの」ではなく、「お客様が欲しいもの、必要なもの」という視点を変えることから始まり、来場者の年齢層、天候、地域性、求められていることを考慮し金額設定、販売個数、サービス内容など考えていきます。

この思考は将来世の中に必要なもの・ことを察知し、それらを生み出す力につながっていくのではないかと期待しています。

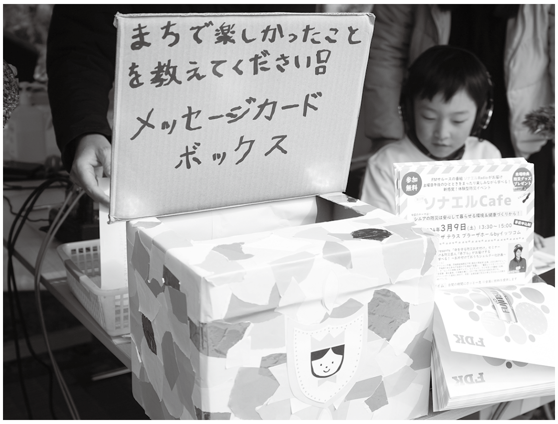
③お仕事体験をする

市民税を納めてチッチェーノに市民登録をした子ども市民は、ハローワークでお仕事を探し、働くと、街の中でのみ使用できる紙幣でお給料が支払われ、買い物やサービスを受けるために使うことができます。また、所得税として、お給料の10％を税務署で納めます。

働くのは、警察、消防、ラジオ局、放送作家、大学研究室、魚屋、八百屋、ガス会社、ネイルサロン、一級建築士、インテリアデザインなど50種類以上に上ります。子どもたちにとってここで初めて知る職種も少なくありません。

お仕事体験の場を提供してくださるのは本物の会社、機関の大人の方々です。

内容は子ども向けにアレンジされることなく、大変さや難しさも体験できるようになっており一緒に営業をしたり、問題解決に取り組んだりする中で自然と子どもたちと大人の交流も生まれます。大人も子どもたちから刺激を受け、新たなアイデアを発



「みんなに街のことを伝えるため、ラジオ局がやりたい」と言った小学１年生。地元ラジオ局 FM サルース様の全面協力で、番組企画から DJ までやり遂げました

まちづくりチームの子どもたちが企画したスタンプラリー。街の隅々まで楽しんでもらえるように５つのスタンプポイントを設置。改修後は１時間に一回抽選でお買い物券が当たるという仕組みも考えました

チッチェーノ市役所で市民登録をするとマイナンバー入りの市民カードがもらえます。カードを持ってハローワークに行くとお仕事探しができます

お仕事の後は、お給料の一部を所得税として納税します。納税するとシールがもらえ、「この税金を何に使って欲しいかアンケート表」に貼った後、また次のお仕事を探せます

お仕事体験では、警察、消防、ガス会社のほか、魚屋、ネイルサロンなどなど、すべて街の本物の機関、企業、団体が出店し、30分に数名ずつ体験を受け入れてくださいます

見することもあるようで、子どもも大人もワクワクするような場作りができているものと考えています。

④街を楽しむ

その日街に遊びに来る一般来場者は、街でお買い物やサービスを受けることができます。通りがかった近隣の方々も楽しんでいる様子を見ることができます。「次回参加してみたい」「私もボランティアとして携わりたい」など多くのお声をいただき、地域の横の繋がりが広がりつつあると感じています。

—税金を知る—

起業や街づくりを考える子どもたちは、開催半年前から「子ども会議」を行い、その中で作りたい街のアイデアを出し合い実現に向けて準備をします。

街づくりにおいて「みんなで作る」という意味を考える上で重視しているのは税金です。子ども市民が税務署で税金を納める際、税金を何に使って欲しいかを投票形式で集め、この結果を次回のチッチェーノ・チッタの街に活かしていきます。

—みらいへ—

チッチェーノ・チッタでは、保護者の方、ボランティアの高校生大学生を含む大人たちから子どもたちへ「あれをしてはダメ」「こうしなさい」などの声掛けは禁止としています。

子どもたちの自由な発想を尊重しながら街を作りたいからです。

大人は「これなんかどうだろう?」「この方法を試してみない?」など寄り添う形で一緒に考えます。

いいアイデアが浮かばずつまずくときも、失敗をすることもありますが、そこから改善点を見出し、工夫を重ねる。試行錯誤を経験することで自ら考えるという力が育ちます。

この経験を経た子どもたちは将来の道を自ら決め、それを楽しめる大人に育ってくれるのではないかと期待をしています。

２０１８年開催時の参加者が高校生・大学生になり運営に関わってくれています。

チッチェーノ・チッタで経験したことが、その後の生活の中で何かを考えるきっかけになり、人生を楽しむきっかけになっていると実感しています。

このように世代の循環を重ね、参加者だった子どもたちが、いつか主宰を引き継いでくれることを願っております。

（チッチェーノ・チッタ運営委員会
代表　鈴木美由紀）